

証券コード：6469



株式会社 **放電精密** 加工研究所

2025年2月期
決算説明会資料

2025年4月17日

■ 本資料のポイント

…P.3

■ 2025年2月期決算概要

☐ 2025年2月期 決算概要（連結）

…P. 4

☐ 2025年2月期 利益の変動要因

…P. 5

☐ 事業概要

…P. 6

☐ 2025年2月期 セグメント別概要

…P. 7～

☐ 連結貸借対照表とCFの状況

…P. 11

■ 2026年2月期通期業績予想および株主還元について

…P.12～

■ 中期経営計画2027の進捗

…P.20～

■ 別紙①：2025年2月期決算補足資料

■ 別紙②：企業概要について

2025年2月期 連結業績の総括

◆売上高12,898百万円 前年同期比6.1%増

- 放電加工・表面処理が大幅な増収

◆営業利益689百万円 前年同期比199.4%増

- 放電加工・表面処理が生産量増加および価格改定で採算性が改善

◆親会社株主に帰属する当期純利益583百万円

- 繰延税金資産の回収見込み分等を計上し法人税等の税負担が軽減、前期比2.5倍

2026年2月期 通期業績予想

◆25年2月期対比で増収、営業増益を予想

- 通常税率に基づく法人税等の税負担が発生し、親会社株主に帰属する当期純利益は減益の見通し

中期経営計画2027 の進捗について

◆初年度は営業利益が計画を上回る

- 生産体制整備や収益基盤の強化は計画通りに進捗

2025年2月期 決算概要（連結）

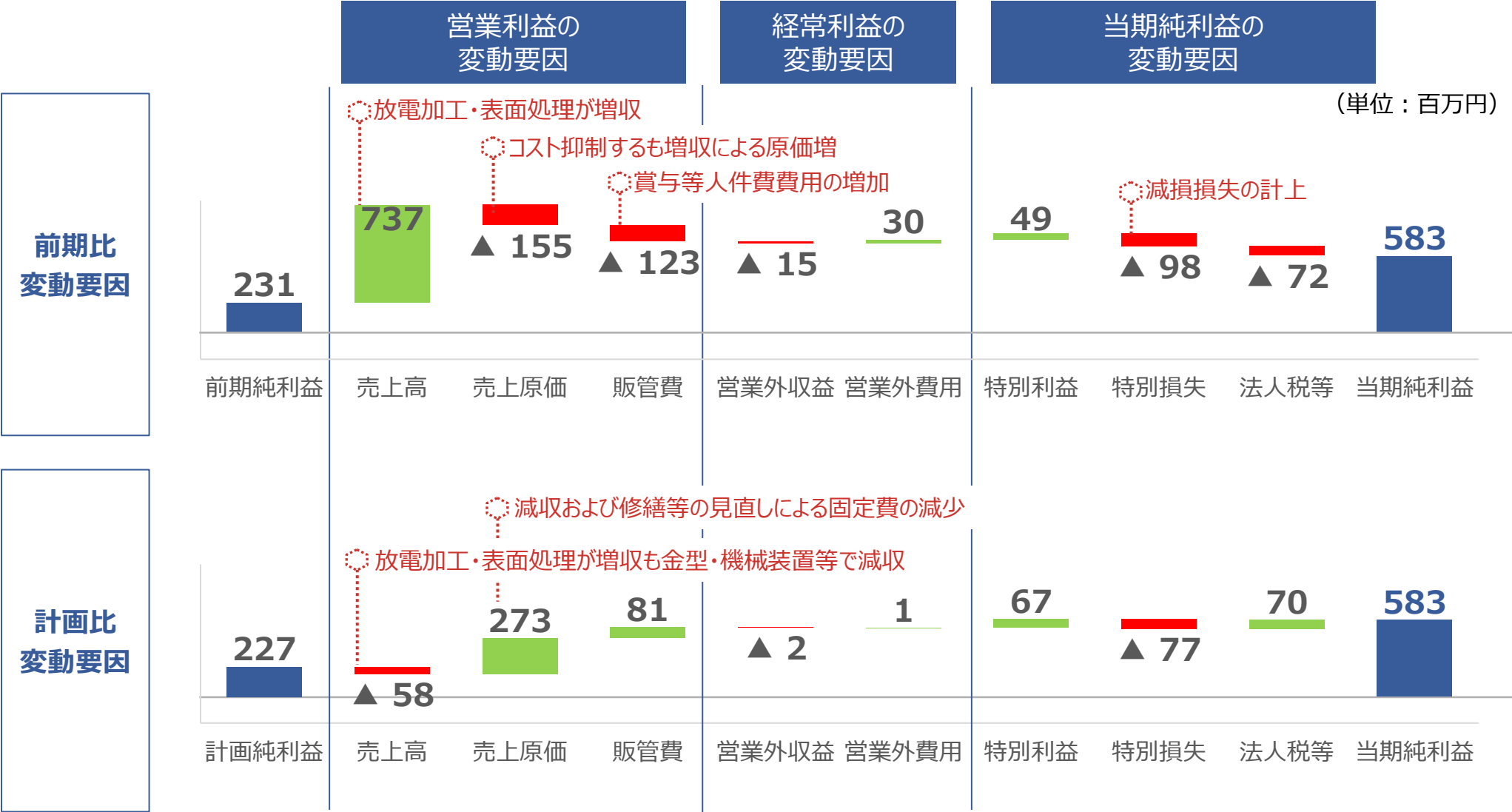


（単位：百万円）

	24年2月期 実績	25年2月期 計画	25年2月期 実績	前期差 増減	計画差 増減
売上高	12,160	12,956	12,898	+737	▲ 58
売上原価	9,646	10,075	9,801	+155	▲ 273
売上総利益	2,514	2,880	3,096	+581	+215
販管費	2,284	2,488	2,407	+123	▲ 81
営業利益	230	391	689	+458	+297
営業外損益	▲ 60	▲ 44	▲ 45	+14	▲ 0
経常利益	169	347	643	+473	+296
特別損益	40	1	▲ 9	▲ 49	▲ 10
税金等調整前 当期純利益	210	348	634	+424	+285
法人税等	▲ 16	109	28	+45	▲ 81
当期純利益	226	238	605	+379	+366
非支配株主に帰属する 当期純利益	▲ 5	11	22	+27	+10
親会社株主に帰属する 当期純利益	231	227	583	+351	+356

※25年2月期計画：24年10月3日公表 業績予想

2025年2月期 利益の変動要因



※計画比：24年10月3日公表 業績予想

※純利益：親会社株主に帰属する当期純利益
※法人税他：法人税等および非支配株主に帰属する当期純利益

放電加工・表面処理

- 航空・宇宙 ～航空機エンジン部品
- 交通・輸送 ～自動車表面処理部品
- 環境・エネルギー ～ガスタービン部品



金型

型

- 住宅 ～アルミ押出用金型
- 交通・輸送 ～セラミックスハニカム押出用金型



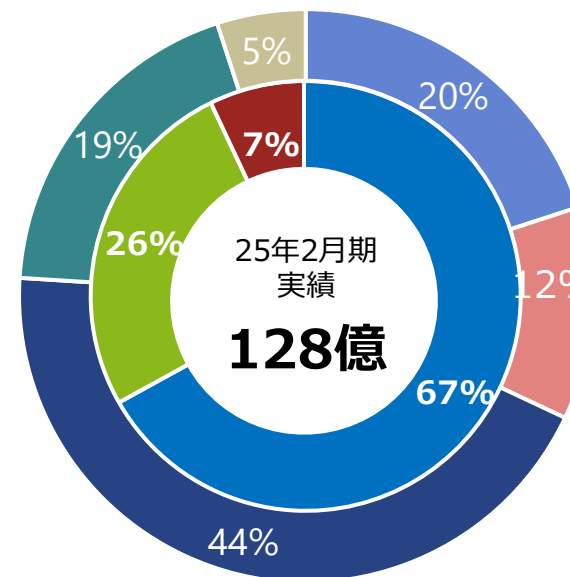
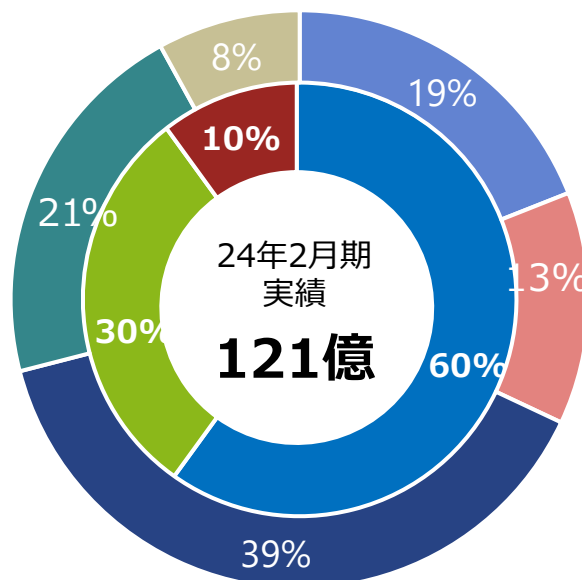
機械装置等

- 機械設備 ～プレス機・プレス付帯設備
- 交通・輸送 ～自動車関連プレス部品



セグメント別/事業分野別売上構成比率（連結）

セグメント別 ■ 放電加工・表面処理 ■ 金型 ■ 機械装置等



事業分野別 ■ 航空・宇宙 ■ 交通・輸送 ■ 環境・エネルギー ■ 住宅 ■ 機械設備

2025年2月期 セグメント別概要

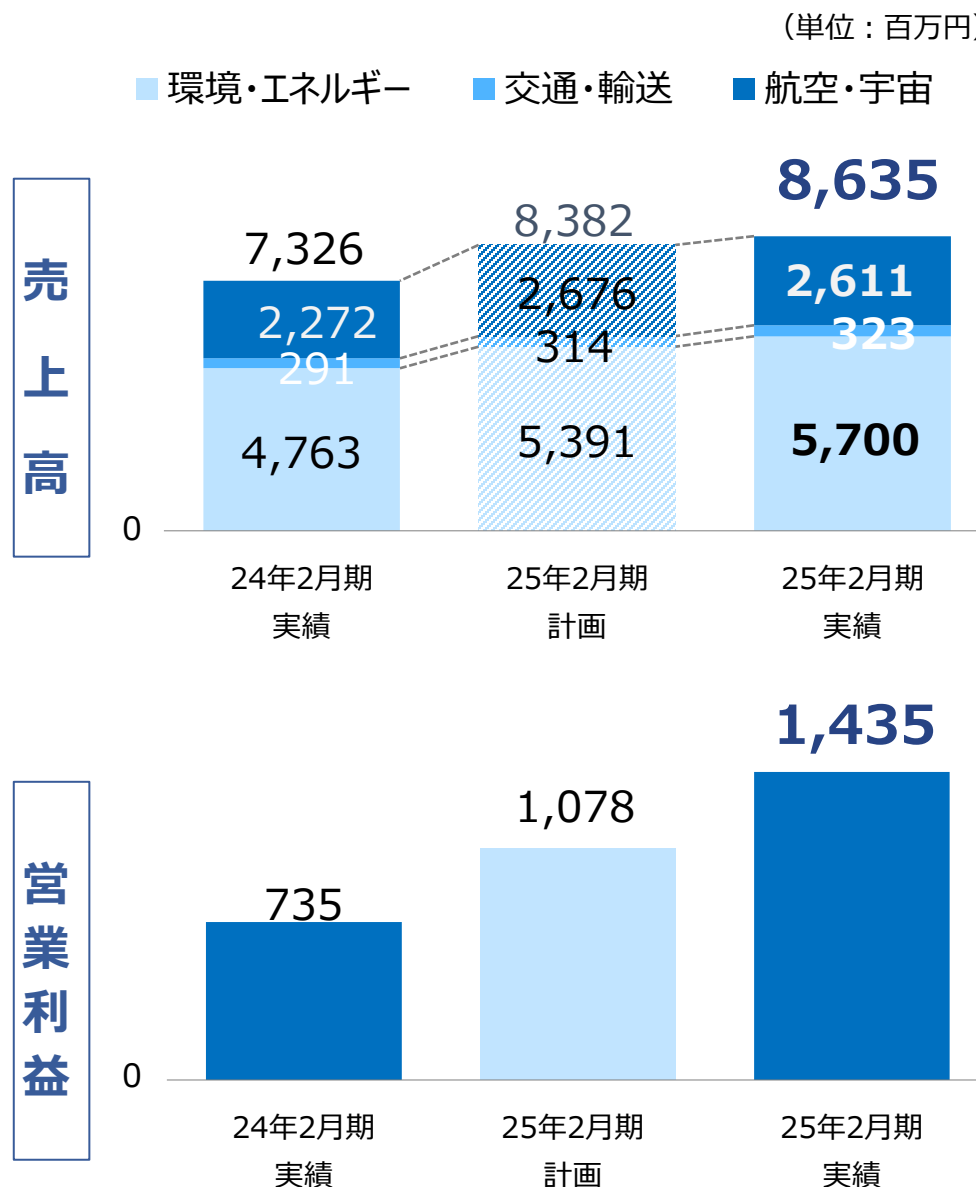


(単位：百万円)

		24年2月期 実績	25年2月期 計画	25年2月期 実績	前期差 増減	計画差 増減
売上高	放電加工・表面処理	7,326	8,382	8,635	+1,308	+252
	航空・宇宙	2,272	2,676	2,611	+338	▲ 65
	交通・輸送	291	314	323	+31	+8
	環境・エネルギー	4,763	5,391	5,700	+937	+308
営業利益		735	1,078	1,435	+700	+356
売上高	金 型	3,600	3,399	3,318	▲ 281	▲ 80
	住 宅	2,517	2,466	2,469	▲ 48	+2
	交通・輸送	1,082	932	848	▲ 233	▲ 83
営業利益		452	397	333	▲ 119	▲ 63
売上高	機械装置等	1,233	1,174	944	▲ 288	▲ 229
	機械設備	918	904	672	▲ 245	▲ 231
	交通・輸送	315	269	271	▲ 43	+2
営業利益		62	123	42	▲ 19	▲ 80
全 社 費 用		▲ 1,020	▲ 1,207	▲ 1,122	▲ 102	+84
全 社	売 上 高	12,160	12,956	12,898	+737	▲ 58
	営 業 利 益	230	391	689	+458	+297

※25年2月期計画：24年10月3日公表 業績予想

セグメント別詳細：放電加工・表面処理



前期比 増収・増益

売上高：7,326 ⇒ **8,635** (+1,308)

営業利益：735 ⇒ **1,435** (+700)

売上高増減要因 (前期比 / 計画比)

□ 航空・宇宙 (↑ / ↓)

- ◇前期比は、防衛装備品を含む航空宇宙関連部品の需要増加により増収。
- ◇計画比は、航空機エンジン部品が新モデルの生産が想定を下回り未達。

□ 交通・輸送 (↑ / ↑)

- ◇前期比は、自動車関連の表面処理部品が価格改定により増収。
- ◇計画比は、おおむね計画通りに進捗。

□ 環境・エネルギー (↑ / ↑)

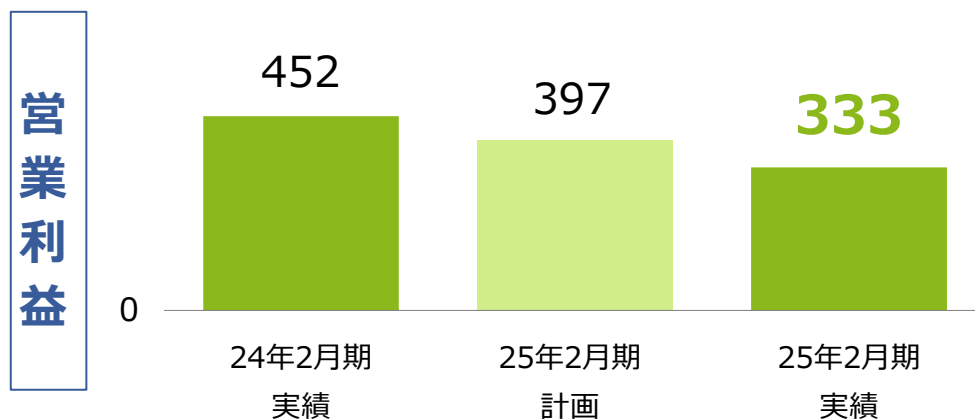
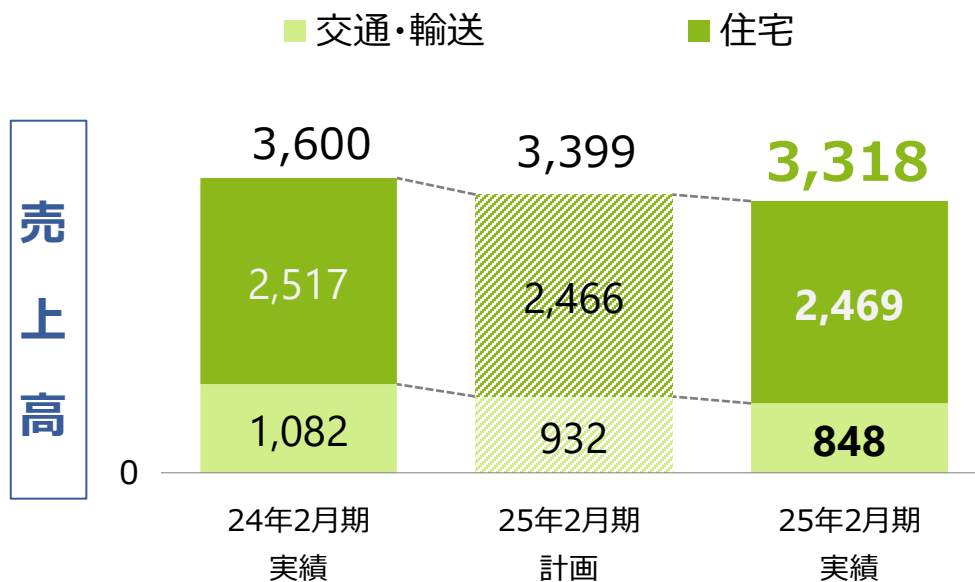
- ◇前期比・計画比ともに、電力需要の増加によりガスタービン部品が増収、石油・ガス産業の精製需要の増加により遠心圧縮機部品が増収。

営業利益増減要因 (前期比 / 計画比)

□ (↑ / ↑)

- ◇前期比は、生産量の増加および価格改定に伴う採算性の改善により増益。
- ◇計画比は、修繕や設備投資の見直しおよび増員計画の未達で固定費が発生せず増益。

(単位：百万円)



前期比 減収・減益

売上高： 3,600 ⇒ **3,318** (▲281)

営業利益： 452 ⇒ **333** (▲119)

売上高増減要因（前期比 / 計画比）

□ 住宅 (↓ / ↑)

◇前期比は、国内向けアルミ押出用金型は価格改定の実施により前期並みに推移、海外子会社のタイ国向けアルミ押出用金型の受注が減少し、減収。

◇計画比は、おおむね計画通りに進捗。

□ 交通・輸送 (↓ / ↓)

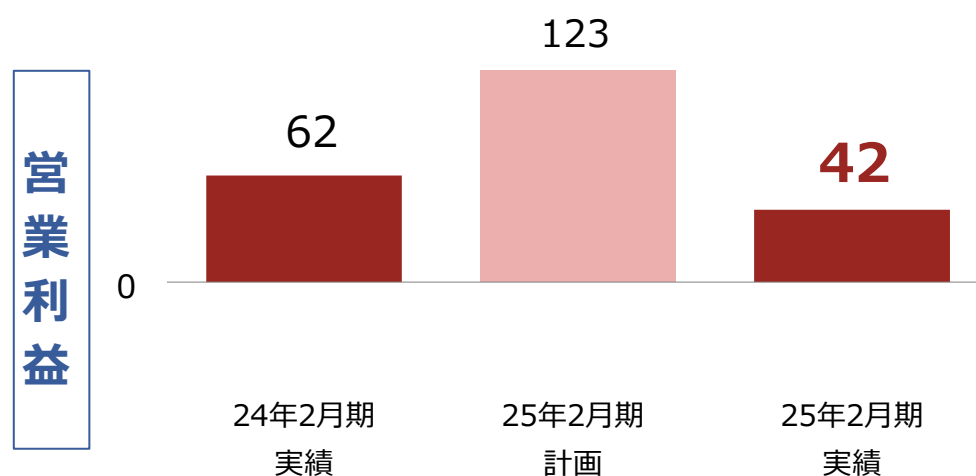
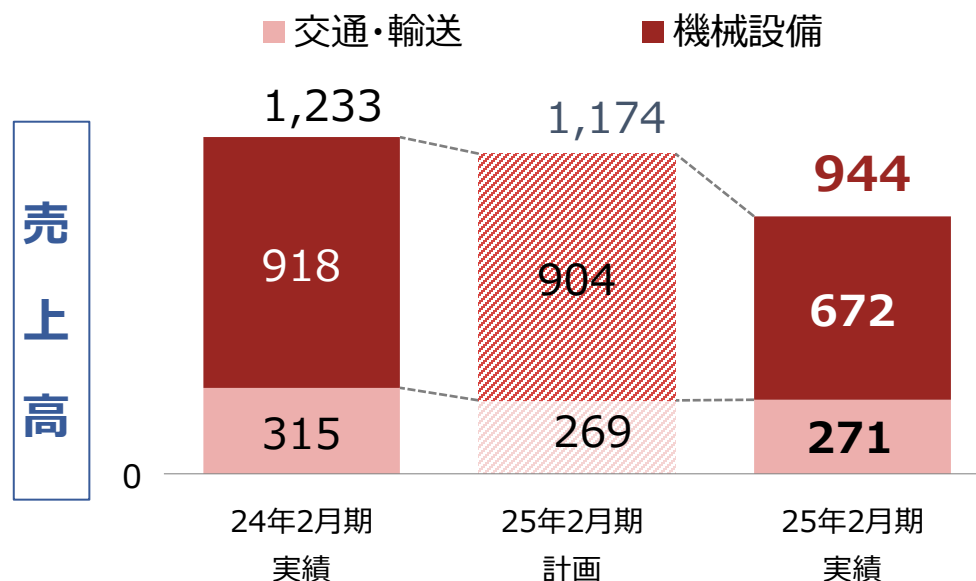
◇前期比・計画比ともに、セラミックスハニカム押出用金型が中国市場の低迷および各国の排ガス規制の遅延・緩和などにより製品構成が変化し減収。

営業利益増減要因（前期比 / 計画比）

□ (↓ / ↓)

◇前期比・計画比ともに減収および高付加価値製品の減少により減益。

(単位：百万円)



前期比 減収・減益

売上高： 1,233 ⇒ **944** (▲288)

営業利益： 62 ⇒ **42** (▲19)

売上高増減要因 (前期比 / 計画比)

□ 機械設備 (↓ / ↓)

◇前期比は、プレス機の販売の落ち込みにより減収。

◇計画比は、納入延期およびプレス付帯設備の販売が減少し、未達。

□ 交通・輸送 (↓ / ↑)

◇前期比は、自動車関連プレス部品が自動車市場の低迷を受け減収。

◇計画比は、おおむね計画通りに進捗。

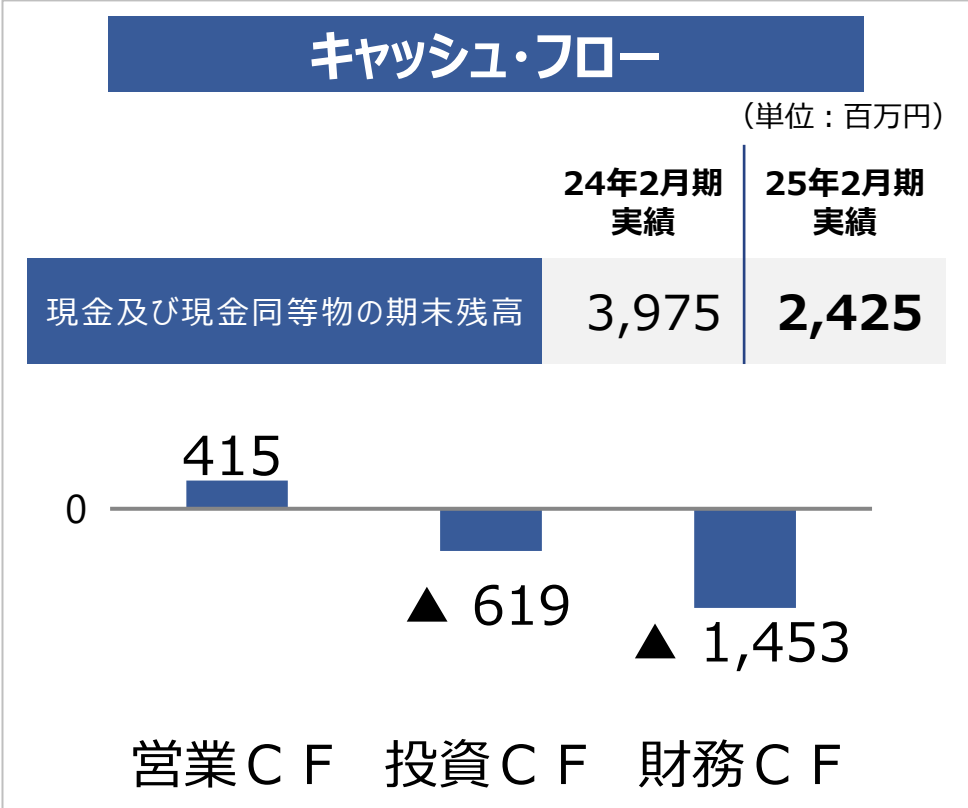
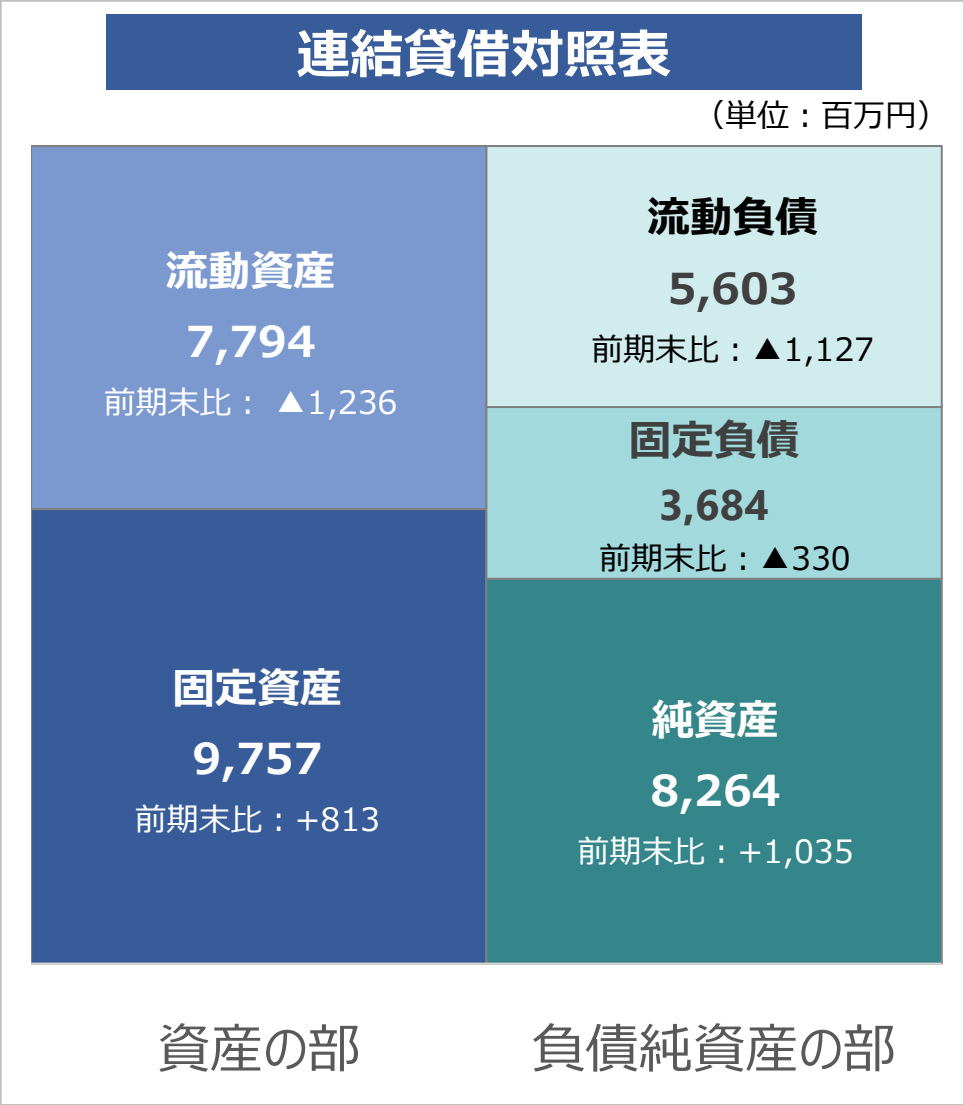
営業利益増減要因 (前期比 / 計画比)

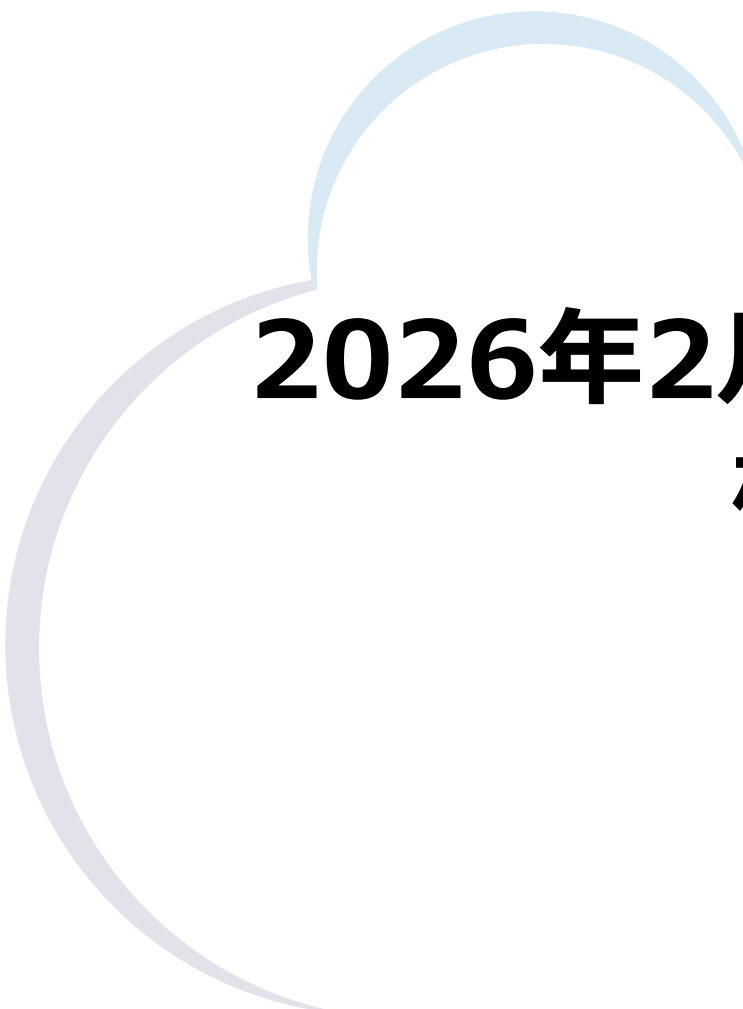
□ (↓ / ↓)

◇前期比は、固定費圧縮するも減収により減益。

◇計画比は、機械販売の遅れ含む減収の影響で未達。

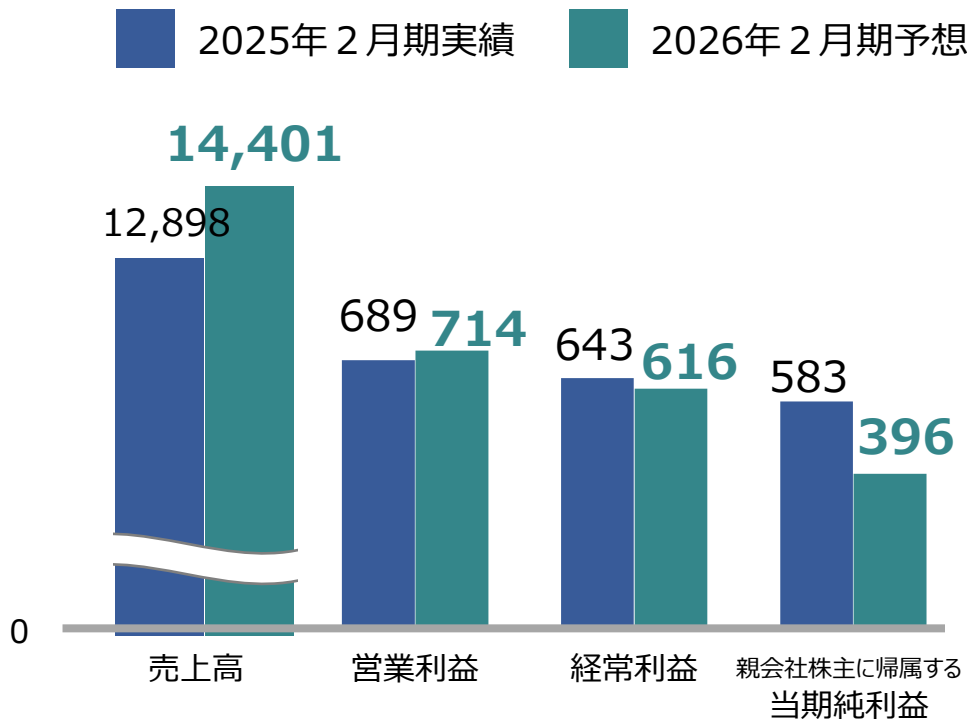
短期借入金の返済により財務改善が進む





2026年2月期通期業績予想および 株主還元について

2026年2月期通期業績予想（連結）



(単位：百万円)

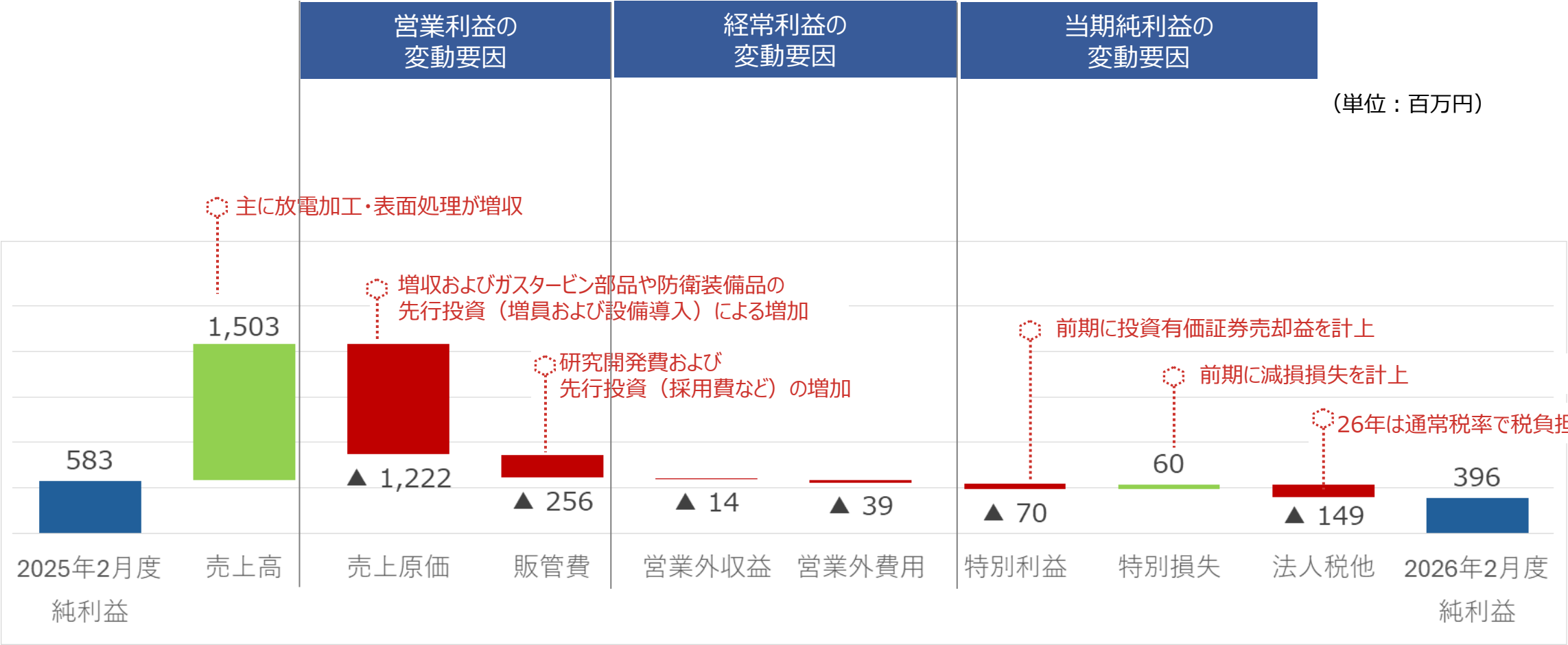
	25年2月期 実績	26年2月期 予想	前期差	前期比
売上高	12,898	14,401	+1,503	111.7%
営業利益	689	714	+25	103.6%
経常利益	643	616	※1▲27	95.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	583	396	※2▲186	68.0%

※1 経常利益：金利上昇を想定
※2 当期純利益：25年2月期は法人税等の税負担が軽減、
26年2月期は通常税率を想定

(単位：百万円)

	26年2月期 上期予想	26年2月期 下期予想	<参考> 25年2月期 上期実績	<参考> 25年2月期 下期実績
売上高	7,055	7,346	5,952	6,946
営業利益	263	450	166	522
経常利益	209	407	137	505
親会社株主に帰属する 当期純利益	127	268	80	502

2026年2月期 利益の変動要因



※純利益：親会社株主に帰属する当期純利益
※法人税他：法人税等および非支配株主に帰属する当期純利益

2026年2月期セグメント別概要予想（連結）



		25年2月期 通期	26年2月期 通期予想	前期差 増減	26年2月期 上期予想	26年2月期 下期予想
売上高	放電加工・表面処理	8,635	9,325	+690	4,635	4,690
	航空・宇宙	2,611	3,733	+1,122	1,826	1,907
	交通・輸送	323	335	+12	158	177
	環境・エネルギー	5,700	5,255	※▲444	2,649	2,606
営業利益		1,435	1,524	+89	773	750
売上高	金型	3,318	3,436	+117	1,668	1,767
	住宅	2,469	2,517	+47	1,270	1,246
	交通・輸送	848	919	+70	398	521
営業利益		333	385	+52	130	255
売上高	機械装置等	944	1,639	+695	751	888
	機械設備	672	1,336	※+663	599	737
	交通・輸送	271	303	+31	152	151
営業利益		42	226	+183	98	127
全社費用		▲1,122	▲1,422	▲299	▲739	▲683
全社	売上高	12,898	14,401	+1,503	7,055	7,346
	営業利益	689	714	+25	263	450

※セグメント間の組替え：放電加工・表面処理セグメントの環境事業の一部を機械装置等セグメントへ移管しております。

放電加工 表面処理

- ☐ 航空・宇宙関連は、航空機エンジン部品と防衛装備品が増産対応により増収
- ☐ 交通・輸送関連は、自動車産業の成長鈍化を想定し、横ばい
- ☐ エネルギー関連は、ガスタービン部品が人・設備の先行投資を実施。生産量は前期並み

金型

- ☐ 住宅関連は、市場環境は前期並み、他分野営業強化。海外も横ばいとして生産改善に注力
- ☐ 交通・輸送関連は、市場環境は前期並み、他分野営業強化。生産改善に注力

機械装置等

- ☐ 機械設備関連は、前期に納入延期となったプレス機の販売および受注積上げ
また、組替えを行った環境事業は混合溶融機の開発・販売を推進
- ☐ 交通・輸送関連は、市場環境は前期並み、プレス部品の体制最適化で収益寄与

全社費用

- ☐ 全社のDX化・自動化へ展開し業務改革を推進
- ☐ 工場の再配備や移設で生産ラインを最適化するなど全社のリソースを最大限の活用

設備投資／減価償却費

(単位：百万円)

	25年2月期 実績	26年2月期 計画
設備投資	1,472	1,500
減価償却費	729	800

2025年2月期～2026年2月期 主な投資案件

- ガスタービン部品、航空機エンジン部品、防衛装備品の生産体制再整備
- その他事業の定期設備更新

研究開発費

(単位：百万円)

	25年2月期 実績	26年2月期 計画
研究開発費	42	100

2025年2月期～2026年2月期 主な研究開発案件

- 自社リソースを活用した自動化・省人化の推進
- 工法改善による生産の効率化・新工法の開発
- 混合溶融機の性能向上および混合溶融技術の素材を活用した各種成型技術の検証

- 各拠点で再整備を実施
リソースの活用と技術の横断で、需要拡大への早期対応を目指す

ガスタービン部品

生産拠点の拡大

2025年4月 生産開始

完了

名古屋事業所を整備し、岡山事業所と2拠点生産体制構築



岡山事業所



岡山事業所



名古屋事業所

生産能力増強

2027年2月期 生産開始予定

進捗中

岡山事業所と名古屋事業所の生産能力を増強

航空機エンジン部品

増産に伴う設備の増強

2025年2月期下期 生産開始

完了



小牧事業所

防衛装備品

生産対応能力の

増強準備と再構築

2026年2月期下期 生産開始予定

進捗中

株主様に対する利益還元を経営の最重要課題のひとつと考え、現在および今後の事業収益をベースに将来の事業展開や経営体質の強化のために必要な内部留保資金の確保などを勘案し、安定的かつ継続的な利益還元を実施します

配当金

2025年 2 月期

期初予想 **7円 → 12円**

2026年 2 月期予想

15円



中期経営計画2027の進捗

改革 推進

- 成長への組織改革と人的資本投資の推進および体制の整備

収益 基盤

- 事業ポートフォリオの再設定、リソースの有効活用と効率化を促進
- 標準化と自動化による全社の業務改革を推進

成長 基盤

- 海外展開を拡大し、成長事業の国際競争力を強化
- 長期ビジョンを背景とした技術開発への取り組みを強化

経営 基盤

- ESG経営の体制構築とサステナビリティへの取り組みを推進
- ステークホルダーから安心・信頼される健全経営の推進、相互関係を強化

改革推進

新組織によるPJ推進

本社機能を強化した組織で成長分野の投資計画の支援やコスト意識の浸透を図り収益基盤を強化

人的資本への投資

業界の経験豊かな人員を登用し、成長分野の能力増強計画を着実に推進

人事制度を刷新

従業員の得意分野に応じた評価制度で適切な人員配置

収益基盤

価格の適正化

資材費高騰や長年の取引で採算が低下したもの等の価格交渉を推進

生産効率化、ライン立上げ早期化

適切な人員配置や内製化により、2拠点生産体制を構築

コスト管理の強化

仕様・必要性の見直しや価格妥当性など調達コストの管理強化

業務の標準化

間接部門の業務改善を行い作業簡素化、成長事業へ配置転換

事業拡大と収益性の改善により安定収益体質へ

事業機会と収益性

成長事業だが収益性に課題

ガスタービン部品、航空機エンジン部品、防衛装備品

自社の強みを活かせる

事業領域へ資源集中



高成長・高収益事業

➤ 顧客深耕（パートナー化）



事業の成長性・収益性に課題

アルミ押出用金型

合理化追求で安定収益に貢献

事業の成長性に課題

セラミックスハニカム押出用金型、プレス機

優位性を向上し新分野で再成長

収益基盤の盤石化・経営の安定性を維持向上

◆利益創出体制を強化

- 業務の標準化、生産の自動化・省人化で効率性を追求

◆成長分野は業容の拡大へ向けた投資を順次実施

- ガスタービン部品と防衛装備品は増産ニーズへ対応するため増員・生産設備の能力向上

◆三菱重工業株式会社との資本業務提携によるシナジー効果創出

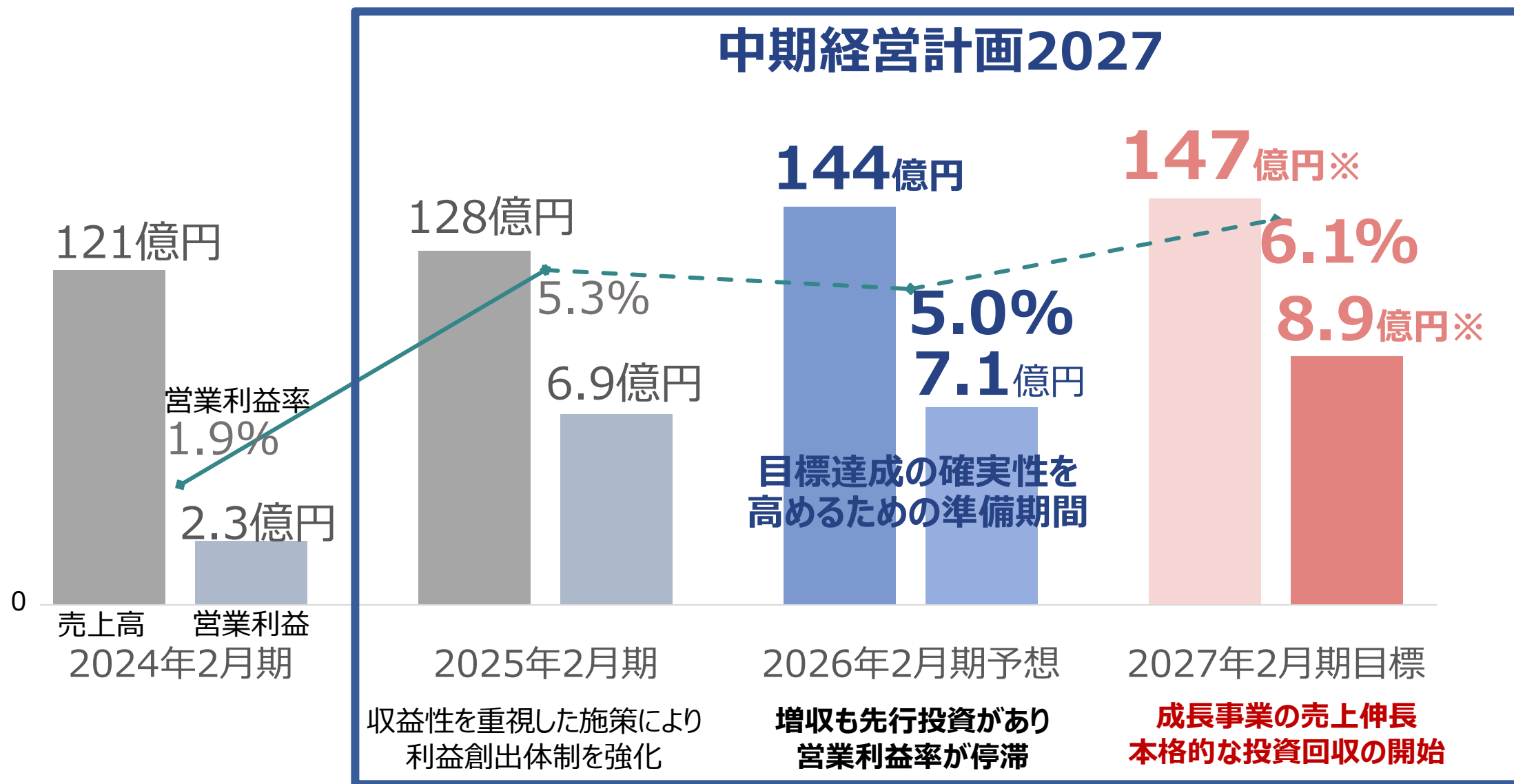
- 独立性を維持しつつ、持続可能性などの対話を深め、経営の安定性を強化
- 長期的な戦略的パートナーシップを構築し連携を強化、成長分野の増産ニーズへ対応



各事業の進捗について

当社が関与する分野は二極化が進む、
特にカーボンニュートラルや安全保障へニーズが高まるなど安定的成長に期待

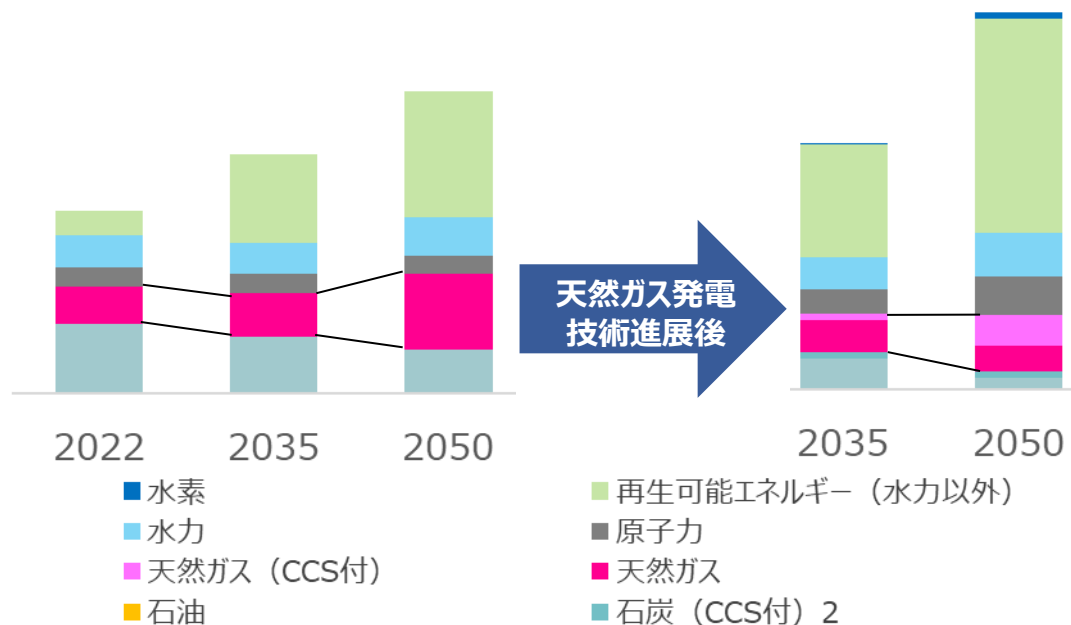
事業分野	主なアイテム	方向性（●機会 ■リスク）	
エネルギー	ガスタービン部品	堅調	○AI普及を背景にデータセンターの新增設に伴う電力需要が旺盛 ○燃料転換・再エネ需要を背景に天然ガス火力発電の需要継続 ○水素・アンモニア焚きガスタービンへの期待の高まり
航空・宇宙	航空機エンジン部品 航空宇宙関連部品 防衛装備品	堅調	○コロナ禍で一時的に需要が低迷していた航空機エンジンの需要回復 ○航空業界のサプライチェーンは立て直しによる調整局面から回復 ○安全保障強化の方針を受け、防衛力整備計画が大幅拡充
機械装置	デジタルサーボプレス機 プレス付帯設備	ゆるやかに増加	○物価高の長期化も、生産効率を目的とした補助金が投資を後押し ○半導体・次世代電池向けなど投資需要が増大
環境	MF混合溶融装置	ゆるやかに増加	○社会要請を背景としたプラスチックの循環利用実現への期待高まり ○環境価値の高い製品開発が加速
住宅	アルミ押出用金型	横ばい	○大型再開発案件の設備投資意欲が建設需要を下支え ■中国経済の停滞および金利上昇による購買意識の低下で低水準に推移
交通・輸送	セラミックスハニカム押出用金型 自動車関連プレス部品 自動車表面処理部品	横ばい	○足元では排ガス規制を背景に内燃機関車の低炭素化加速 ■米国の輸入関税強化で日中経済停滞、自動車産業の成長鈍化 ■電動化により生産品目に変化、既存部品の需要減少



※2027年2月期目標は2024年4月9日に公表した数値です。

事業機会認識

世界の発電設備と発電電力量予測



出所：日本エネルギー経済研究所

- ✓ 安定かつ効率的に電力を供給する天然ガス火力発電は堅調
- ✓ 再エネへ移行後は、バックアップ電源として天然ガス火力発電は需要維持
- ✓ 当社既存技術で水素混燃などカーボンニュートラルへの対応も可能

事業の方向性

■ ガスタービン部品

<売上拡大>

- ・生産能力増強（生産ライン増設と再構築で生産性向上）
- ・国内および海外の主要顧客との連携強化
- ・メンテナンスサービスの拡大

<収益基盤強化>

- ・既存製品と新規生産ライン立上げを両立させるため
生産管理体制を強化

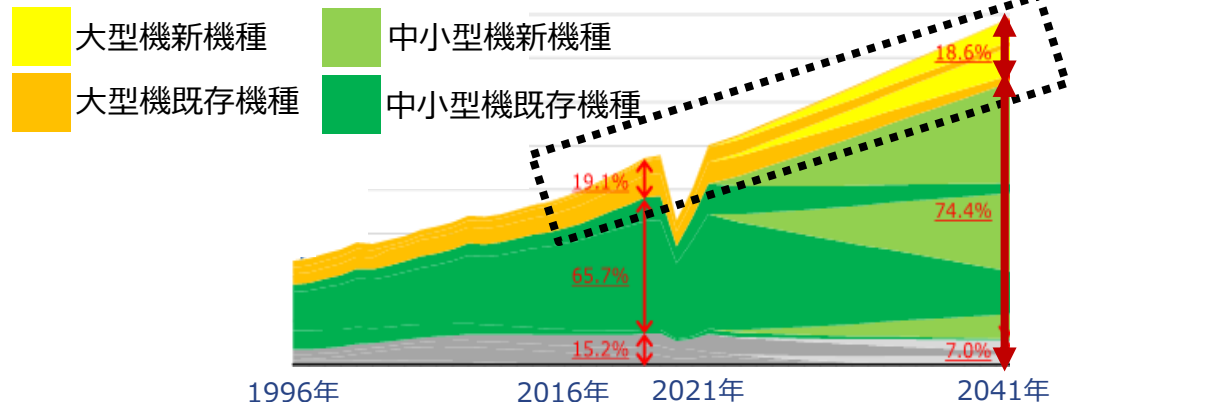
今後の活動

■ 当初計画通りに生産能力増強に向けた準備を推進

- ・設備の導入と別事業のリソース活用で、先行投資の早期化
- ・業界の経験が豊富な人材の確保と教育によるスキル向上
- ・増産に向けた生産管理体制の構築

事業機会認識

<航空分野>



出展：一般財団法人日本航空機開発協会資料

- ✓ 燃費性能に優れる機種への入れ替えやメンテナンス需要は一定量維持
- ✓ 航空機部品業界は供給網を盤石化し需要への対応を強化

<防衛分野>

防衛予算 27兆円 → 43兆円

(2019～23年度) (2023～27年度)

出展：財務省ホームページ「中期防衛力整備計画」より

- ✓ 2023年度予算では防衛力整備事業費を大幅に増額
- ✓ 効率的で持続可能な装備品サプライチェーン構築を推進

事業の方向性

■ 航空機エンジン部品

<売上拡大>

- ・既存はコロナ前レベルに回復、新規エンジン部品の増産対応

<収益基盤強化>

- ・生産量増加への対応

■ 防衛装備品

- ・既存アイテムの需要増加への対応

今後の活動

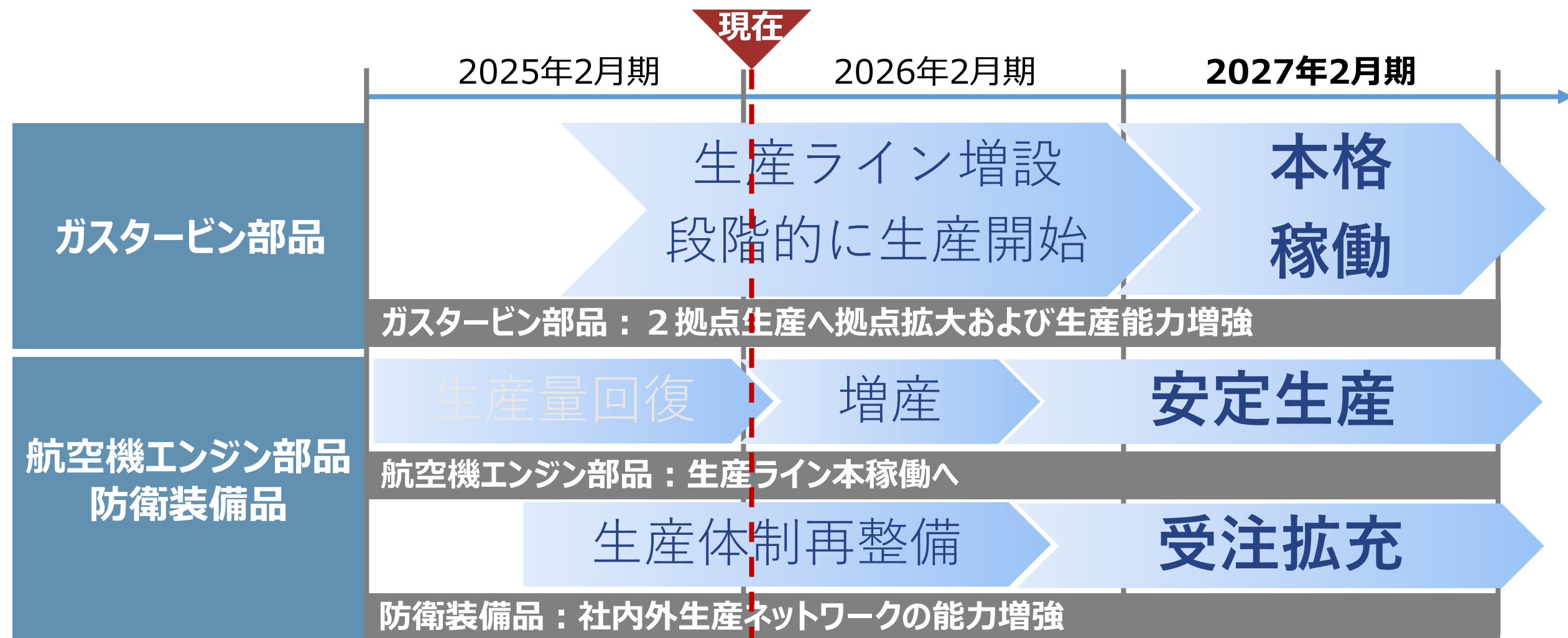
■ 物量回復への対応と次の中計を見据えた生産体制の構築

- ・業界の実績が豊富な人材の確保と教育によるスキル向上
- ・サプライチェーンの強化
- ・保有リソースをフル活用した生産管理体制の構築

■ 健全な収益基盤の拡大

- ・燃料コスト上昇などを加味した適正価格を維持・継続

当初予定通りに進捗、準備期間を経て3年目に生産本格化



航空機エンジン部品・防衛装備品

中計2024

中計2027

外部環境認識

□ 航空業界の脱炭素化が加速

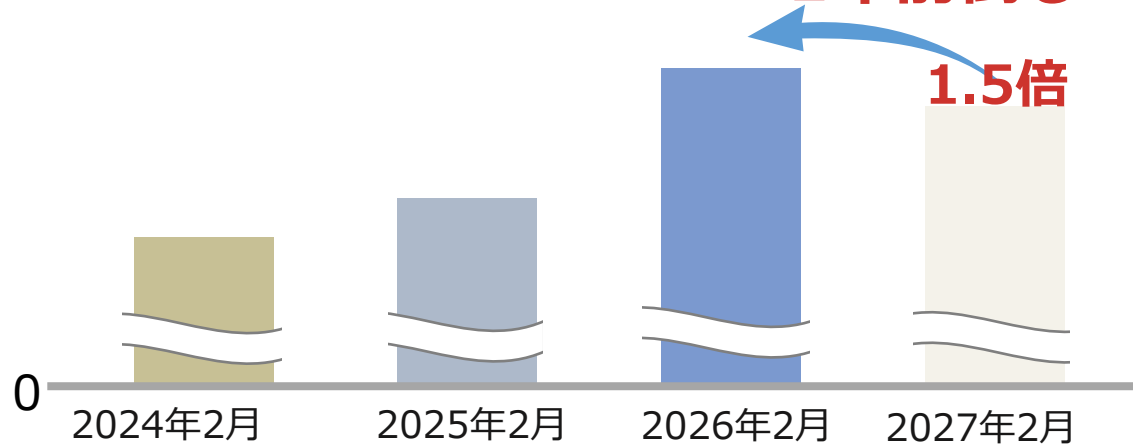
● 燃費効率の良い機体需要が増加

□ 安全保障意識の高まり

● 防衛産業は、製造・開発費が増加

1年前倒し

1.5倍



- ✓ 航空機エンジン部品はコロナ前の高い水準を維持継続、さらに新モデルを増産
- ✓ 防衛装備品の大幅増産、**需要の早期化へ前倒し対応**
- ✓ 保有リソースをフル活用した生産管理体制の構築

ガスタービン部品

中計2024

中計2027

外部環境認識

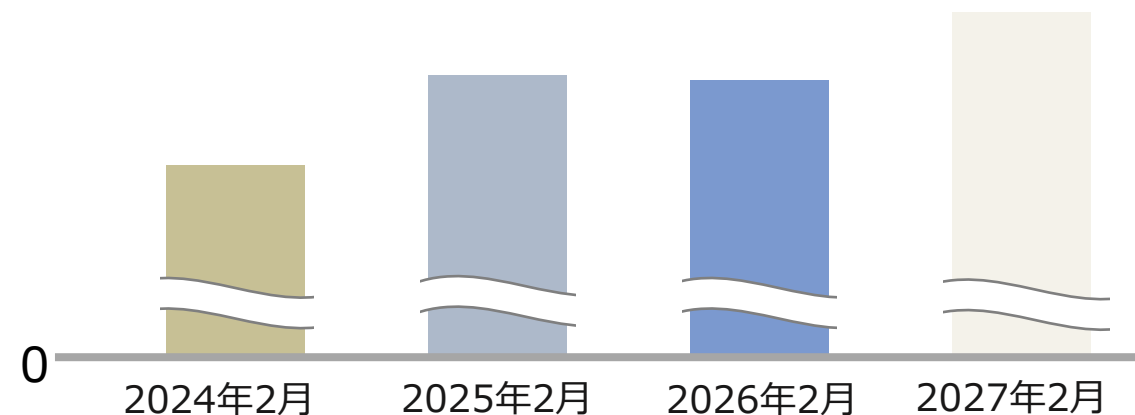
□ 脱炭素化へ移行する過渡期として需要は継続活況

● 安定供給できる天然ガス発電需要は堅調

□ 新エネルギー開発が加速

● 水素・アンモニア発電システムの開発加速

1.3倍



- ✓ 初年度は大幅増産、**2年目に先行投資**を実施し、更なる拡大へ
- ✓ 水素アンモニア混焼へ移行後も需要は継続の見込み
- ✓ 既存製品の生産と新ライン立上げの両立、コスト管理強化

合理化追求で安定収益および優位性を活かした新分野での技術貢献

アルミ押出用金型

先進的なデジタル技術を活用し工法転換

- ・大幅な工程短縮を実現する生産技術の開発
- ・需要に合った体制を維持継続し業績へ寄与

新工法による採算改善



需要に合った体制を維持継続し
高品質で高機能なものづくりへ貢献

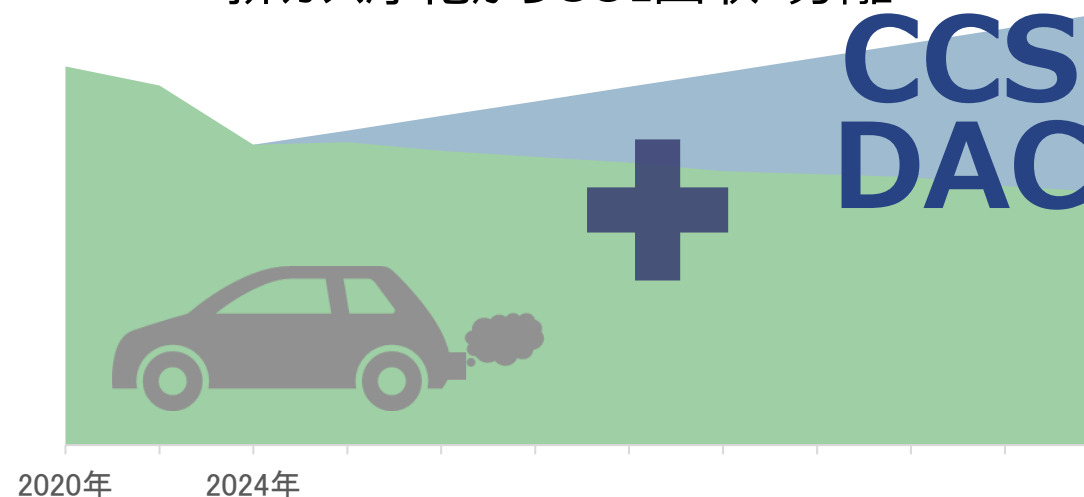
セラミックスハニカム押出用金型

CO₂回収・分離など新たな市場への展開

- ・設備更新と生産技術の改善による生産性の向上
- ・顧客とともに技術の実証を推進

当社が目指す事業構造

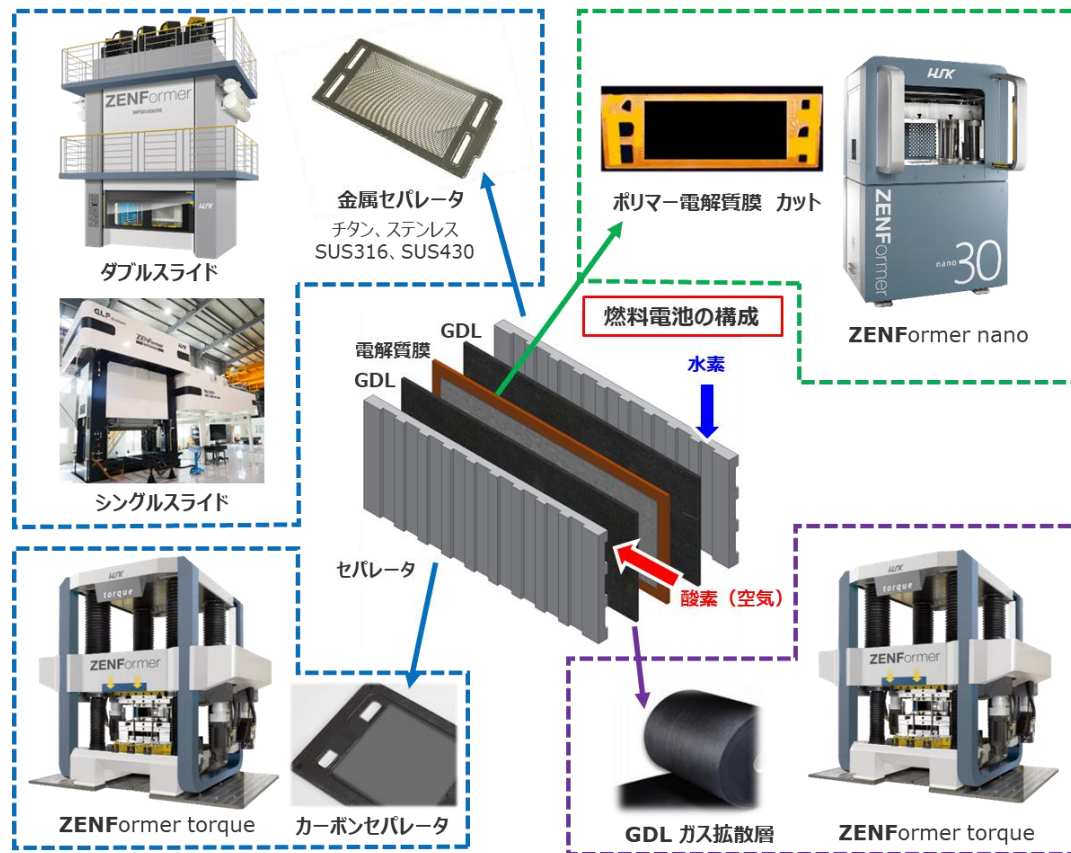
排ガス浄化からCO₂回収・分離へ



技術力を結集し、顧客の課題へ幅広く対応する装置ビジネスへ

環境負荷低減に向けた製品開発へ貢献

- 新たな素材に対応した最適な工法の開発
- 遠隔支援サービスを実装し、新たな需要開拓を推進



資源循環型社会に向けた活動を推進

- 産学官連携・高度マテリアルリサイクル研究会と難処理プラスチックの再生や食品残渣の社会課題へ提案



かながわSDGsパートナー連携取組み



神奈川県県内間材等の製材所で発生するおが屑を活用したバイオマスプラスチックを素材とするコースターを開発

2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）における 「日本政府館（日本館）」の 展示協賛（モノづくりエリア）の協力

経済産業省が出展する日本政府館で日本の伝統と最先端の技術が融合した「循環型ものづくり」をテーマに、日本政府館のファクトリーエリアにおける展示制作（モノづくりエリア）に、当社は共創プロジェクトの1社として協力します。藻類を混ぜ込んだバイオプラスチックを使用し、2台のロボットアームによる3Dプリント技術を用いてツールを製作します。



提供：経済産業省

【日本館内における展示制作（モノづくりエリア）】協賛団体：「双鶴」共創プロジェクトの構成員

- ◆慶應義塾大学 COI-NEXT(共生アップサイクル) ◆金沢大学 COI-NEXT（多糖類バイオプラ循環）
- ◆エス.ラボ株式会社 ◆株式会社 DigitalArchi ◆株式会社放電精密加工研究所

A high-contrast, black and white close-up photograph of a fan blade, showing its curved shape and the gaps between the blades. The lighting creates strong highlights and deep shadows, emphasizing the metallic texture and aerodynamic design.

HSK 株式会社 **放電精密** 加工研究所

本資料に記載された目標や予測等、将来に関する記述があります。
資料作成時点での当社の判断に基づき作成したものであり、その情報の正確性を保証するものではありません。
また、様々な不確定要素が内在しておりますので、実際の業績や結果とは異なる場合があります。